

東洋医学公益講座

第29回

✓ 講師:羅 予澤

√ 提供:未病予防協会

✓ 協賛: (株)ベンチャーバンク

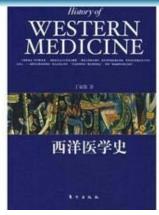
先人の智慧、後世の階段

東洋医学生理学基礎

東西医学の生理学の差異







西洋医学

- ✔ 西洋医学の生理学は解剖学から 目に見える肉体や物に着目
- ✔ 東洋医学の生理学は自然哲学から 目に見えない気を重視

東洋医学公益講座 語る人:

羅予澤▶

画像写真 百度図片

いるいるの「気」

✓ 肉眼では見えないもの

電気、熱、水蒸気、電磁波、酸素、 ガス、ウイルス、細菌、神経物質 etc.

✓ 測定不可能なもの

オーラ、霊、神、鬼、ダークマター、 ダークエネルギー etc.

東洋医学の運気学

「気」 自然と連動しているものとして 東洋医学では昔から認識していた

- ✓ 五運=地の気(木/火/土/金/水)
- ✓ 六気=天の気(風/寒/暑/湿/燥/火)

常に変化する自然の気

「気候」

- ✔ 気=15日間の自然エネルギーの変化
- ✔ 候=5日間の自然エネルギーの変化
- 1年 = 24節気 年月日時の干支は異なり、気も異なる

例: 2017年5月25日17時

丁酉年 乙巳月 壬子日 己酉時

気の異常は病気を招く

- ✔ 1993年日本の冷夏により
 - → 米の大凶作、世界各地から輸入

- ✔ 2000年の中国の夏の猛暑により、
 - → 2003年 SARSの大流行

内外の気から体への影響

- ✓ 気の影響を受け、直ちに発症する 場合(熱中症など)
- ✓ 数年後に症状として現れる場合 (ガンなど)

その規則は東洋医学の古典に詳しく 記述されている

「運気学」による予測

- ✓ 干支の組合せ(年、月、日、時)から 気の状態を判断し、気候の変化及び 人体への影響を予測できる
- ✓ 生まれた時点の干支の組合せ(年、月、日、時)による気の状態から、人生に起こりうる病気及びその予後を予測できる

生物全息理論に基づく診断と治療

生物全息

全身の反応情報が人体のある部分 部分に規則的に配列している現象

「部分は全体であり、全体は部分である」「全体は部分の単なる寄せ集めではない」

部分の変化から全体の状態を把握する

気を診る四診法(望・聞・問・切)

- ✓ 望診 … 目で見る
- ✔ 聞診 … 耳で聞く、鼻で聞く
- ✓ 問診 … 口で問う
- ✔ 切診 … 手で触る (脈・皮膚…)

例えば スイカを選ぶ時

- ✔ 模様・ヘタ・へその様子 ⇒ 望診
- ✓ たたいて音を聞く ⇒ 問診
- ✓ 匂いを嗅ぐ ⇒ 聞診
- ✓ たたいたり、触ったり ⇒ 切診



部分から全体の状態を診る

気の異常がある時、部分の変化から 全体の気の状態を察知する

- ✓ 顔色を診る
- ✓ 触った時の温度
- ✓包いを嗅ぐ
- ✓ 質問をする ……

スイカを選ぶ時の望聞間切

- ✔ 模様・ヘタ・へその様子 ⇒ 望診
- ✓ たたいて音を聞く ⇒ 問診
- ✓ 匂いを嗅ぐ ⇒ 聞診
- ✓ たたいたり、触ったり ⇒ 切診

